

## 第11回 赤川水系河川整備学識者懇談会

### 議事概要

令和5年12月12日(火) 13:30~15:30

庄内産業振興センター西館 3階 マリカ市民ホール

○：委員からの質問・意見

◆：事務局からの回答

#### (1) 赤川直轄河川改修事業(国管理区間)の事業再評価について

- 小学校での防災教育の実施、協議会やシンポジウムの開催など、地域と連携を図る取組の実施はよいことだと思う。今後もこうした取組の継続的な実施が望まれる。また、コスト縮減を図る様々な取組は素晴らしいと思う。
- 全体として、非常に円滑にかつ効率的に事業が進んでいると感じた。
- ハリエンジュの伐採は治水事業の中での維持管理のコストでみられているのか、自然再生のほうでみられているのか、それとも両者に入っているのか、その点を教えていただきたい。
- ◆ハリエンジュの伐採は、環境事業をやっていたときには自然再生事業でみていたが、その事業が終わってからは河川改修の維持費でみている。
- 河川の場合、いざ事が起きたときに人命が失われる、それから家屋が流出する、田畑が駄目になるということで被害甚大となるため高いB/Cになる。マニュアルどおりに計算され、いい評価だったと思う。
- 赤川の河川改修は、鶴岡市、三川町、酒田市というこの流域の中において、大雨時の水位上昇による氾濫が頻繁に起こっていたということからすると、現在の河道掘削の効果は素晴らしいものがあると感じている。  
もう一つは、月山ダムの効果というものも非常に大きなものがあると思っている。今年も秋田県、新潟県で大雨、そして新潟県においては干ばつによる渇水で農作物の大変な被害が発生している。山形県も猛暑による高温の障害というのは、いろいろな分野で発生していたが、庄内地域においては、農産物における渇水被害が無かったといってもいいほど、月山ダムからの利水補給が非常に大きな効果として、何とか農業被害が最小限で食い止められた。赤川水系における国のこの事業というのは、大変効果の大きいものと理解をしている。
- ここ数年想定外の雨が降っている状況がある。赤川のほうも流下能力は計画にまだ道半ばという状況のため、計画をできるだけ前進する、スピードアップするような整備をぜひお願いしたい。
- 河道掘削は、引き続き計画的に進めていただければと思う。併せて行政として、ソフト対策も非常に大事なことなので、避難対策も併せて考えていかなければならないと考えている。
- 素晴らしいハード型の整備と、人的な地元の三川町とかの連携で仕事をされてきて、非常にいいと思っている。氾濫が起こらないとか、渇水は大丈夫よとか、そういうところを一番享受する市民の方が理解してくれているか。伝わっていないのではないかなと思って見ている。  
国土交通省と市町村が連携し、市民に「これだけ命が助かるよ」とか、もっと具体的に響くような宣伝をしていくのがいいのではないかと考えている。市町村が一生懸命やっても、市民のほとんどの人が、理解していない状況というのはよくないと思う。「こうやりましょうよ、

こうするといよいよ」というような、特に人の命に関わるところとか、大事なところを宣伝していただきたい。

○平成 20 年代の後半あたりから、気候変動というのがたくさん起こっていて、山形県においてもいろいろなところで局所的に大きな被害が出ている。地球温暖化によって、今まで我々が予想しなかったようないろいろな気候変動が起こったときに、より俯瞰的な高い位置から全体を見て、対策なり、事業なりを進めていかなければいけないのではないかと思った。

○赤川の直轄河川改修事業によって外水被害はほぼゼロになるということは大変素晴らしいことだと思う。一方で、最近鶴岡市内でも内水の問題が起こったり、新たな水害というものもあつたりして、なかなか一括で解決し得る問題でもないとも思っている。

そこで、住まわれている住民の方がダイレクトに自分の流域、自分の河川の情報を手に入れることはできないだろうかということと、その住民、小集落に住まわれている方々（恐らく高齢者が多い）の親族の方、集落外に住まわれている方がその情報を得て、例えば電話をかけて、「危ないから、もう避難したらどうだ」とか、そういう身内のシステムを構築できないかと思って活動を始めている。

◆遠くにお住まいの方にどうやって危険情報、災害情報を知らせるかについては、国交省でも「逃げなきゃコール」という仕組みをつくっている。アプリの登録が必要になるが、実家のおじいちゃん、おばあちゃんがお住まいのところの地域を登録しておくことで、その危険情報が入手できる。「逃げなきゃコールが」が広まっていないことを実感したので、広報の在り方、伝え方について積極的に取り組んでいく必要があると感じた。

○魚が遡上した先でなぜ産卵できないかという河床の問題がある。治水の面からはやっかいものとなる堆積物は河道掘削をして断面の維持を図るが、生き物にとっては非常に重要な質でもある。これからを考えると、そういう河床の質の評価というものも、実はこういう環境整備の中で重要なコンテンツになるのではないかと感じている。

○山形には山が多いが、平野部を見て自然が多い地域というと、河川の河川敷になる。特に樹木の連続性を持った自然が残されているのは、河川敷ではないかと思う。河川敷の樹木の伐採の際は、環境保全を考慮していただきたい。今までも考慮していただいているが、今後ともよろしく願いたい。

## (2) 赤川総合水系環境整備事業の事業再評価について

○三川町かわまちづくり事業では、多彩なメニューにより、住民に広く親しまれており、今後も取組が継続できると感じた。鶴岡市赤川かわまちづくり事業では、ワークショップや協議会など、積極的に開催されており、今後も取組が継続できるとよいと感じた。地域の協力体制では、積極的にイベントが開催されるなど、今後も継続できればよいと感じた。

○全体として、非常に円滑にかつ効率的に事業が進んでいると感じた。

○B/CをはじくためのCVM法（仮想的市場評価法）は、参考程度でいいのだろうと思っている。むしろ整備を終えたところで、市民の方がどれだけ活発に利用しているか、それをきちんと見ていく、それが評価の中心軸になるべきだろうと思う。資料を拝見して「あっ、なるほどな、こちらの思惑どおり、市民の方がここでいろいろ施設整備されたものを利用して、楽しんでいるな」ということが分かった。

造ってすぐのときは人が来るけれども、年が経つとさっぱり人が来なくなって草ぼうぼうにな

ることだけは避けたいと思う。完成した後の維持管理と誘客がこういう事業にはとても必要なことなので、今後ともそういうことに努力をしていただきたいと思います。

- ◆今後も継続して地域住民に来ていただけるように、国と市町と合わせて頑張っていきたい。
- 5年前には、かわまちづくり一帯をパルク赤川という公園機能を親水空間、にぎわいの場とする取組を考えていたが、この5年間においては、新型コロナの感染拡大もあり、誘客については、イベントを中止せざるを得ないというような状況もあった。これから誘客、そして維持管理というものを流域全体で考えていくことは当然として、まちとしても対応をしていかなければならないと思った。
- 赤川かわまちづくりの整備を進めていただき、今年度は赤川花火大会をコロナ禍前と同じような形で開催することができた。多くの観光客とともに花火大会を開催できたのは、この整備事業を進めていただいたことが大きな要因の一つではないかと感じている。この環境整備事業は、整備途中であるが、鶴岡市としても利活用につながるような施策も考えていきながら、よりよい空間となるよう講じていきたい。
- 三川町のかわまちづくり事業については、フェイスブックでの情報発信を拝見しており、非常に積極的に動いていると感じている。広い目で見れば、かわまちづくり事業も最上川の文化的景観の整備の一環に捉えられると思う。
- 賑わいづくりというものがかわまちづくりの一つ大きな目的である。賑わいといったときに、今まで使っていなかった人がそこに訪れるようになるということも一つ大きな効果になるのではなかろうか。そうしたときに、CVMといったような費用対効果だけではなく、今まで来たことあるのかと、この事業後に初めて来たという人がどれだけ増えたのか、あるいはそのためにどれだけコンテンツを用意できているのかというところが一つ評価になるのではないかと感じている。
- 河川の自然再生事業に関するコメントですが、「河川の連続性」という言葉がある。これは、魚が魚道を使って下流側から上流側に移動するような評価がなされたりするが、魚は何かあっても上流に移動したりすることが多い。しかし、その魚がなぜ上流に上るのかという目的を考えたときに、実は連続性として成立していない、つまり生態としての連続性が成立していないケースというのが結構ある。海から返ってくるサクラマス最終目的は何かというと、川に上がって卵を産んで、次世代に命を残すということなので、上がってはいく。でも、上がった先にも産卵環境がなければ、彼らの連続性というのは絶たれてしまう。ただ単純に移動したという評価だけでは、足りていけないのではないかと思う。流域治水と反対側にあるかもしれないが、河川事業のもう一つの目的である環境の整備としては大きな課題になっていると思った。
- ◆流域治水に関しては、これから進めていくことになる。庄内地域としてできる流域治水を進めていきたいと事務所では考えている。また、皆様方のご意見をお聞かせいただきたい。
- 赤川の自然再生事業の中で、赤川の河床低下進行、瀬と淵の減少云々という話があった。赤川については、羽黒橋下流が結構低平で河川勾配が緩い。ダム地点から羽黒橋あたりまでのところは淵が減っている。一方で、下流は通水断面を広げる話もあるのでなかなか厳しい感じはするが、両方うまくバランスよくやっていくための検討はぜひ必要だと感じた。

以上